

## 本時の学習課題

### 模擬裁判を通して、裁判の役割を理解しよう

#### 本校で育成する資質・能力

(学校) 主体性、コミュニケーション能力

1 日 時 令和7年10月17日(金) 12:30~13:20

2 学 年 第3学年2組 27名

3 場 所 本館3F 3-2 教室

4 単元について

#### ○ 単元観

本単元は、学習指導要領公民分野C私たちと政治(2)民主政治と政治参加を受けて設定している。

#### (2) 民主政治と政治参加

対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。

(イ) 議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。

(ウ) 国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。

(エ) 地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。

イ 地方自治や我が国の民主政治の発展に寄与しようとする自覚や住民としての自治意識の基礎を育成することに向けて、次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

公民分野の目標は、「現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。」とされている。この「現代社会の見方・考え方」とは、「社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などに関連付けること」と考察する際の視点や方法として整理されている。この「よりよい社会の構築」の視点から、公民分野全体にかかる本質的な問いとして、「よりよい社会を実現するために、私達はどのようなことを学ぶ必要があるのか」という問いを設定した。

本単元では国の政治システム(三権分立)と地方自治に関する単元を取り扱うため、「よりよい社会を実現するために、私達はどのようなことを学ぶ必要があるのか」という本質的な問いについて、これまでに学習した対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義の視点に着目して考察していく。

前小単元では、我が国の民主政治について今夏の参議院選挙や「少数与党」の良さと課題など現在の政治状況を読み解きながら、国会については、主権者である国民の代表者によって構成される国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることを理解できるようにするとともに、内閣については、国会が国権の最高機関であることとの理解と関連させ、我が国が議院内閣制を採用していること、衆議院の総選挙が行われれば必ず内閣は総辞職し、民意を反映した新しい内閣ができる仕組みを取っていることについて理解させたい。

本小單元では、三権分立の「司法」について、法に基づく公正な裁判によって国民の権利が守られ、社会の秩序が維持されていること、そのため、司法権の独立と法による裁判が憲法で保障されていることについて理解できるようにする。さらに本時では、抽象的な理解にならないように模擬裁判を通して裁判官、検察官、弁護士などの具体的な働きを通して理解できるようにするとともに、自分であればどのように判断するかを明確に説明させることで、裁判員裁判への関心も高められるようにしていきたい。

本小単元ののちに行う單元では、地方自治について地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治の仕組みや働きを貫いている基本的な考え方であることについて理解できるようにする。

#### ○ 生徒観

本学級では、比較的落ち着いた生徒が多く、授業も静かで集中しやすい環境で取り組むことができる。生徒の客観的な実態を把握するために、生徒アンケートを実施した（表1）。表1の①より、「社会の学習が好きだ」に肯定的な回答をしている生徒の割合が高いことが分かった。

②の「社会の学習は大切だ」に対して肯定的な回答をしている生徒の割合は、高い数値であったが、2年次に比べると大きく数値を落としていた。また、公民の学習前に行ったアンケートでは、⑥の「公民の学習について興味がある」に対して、肯定的な回答をしている生徒の割合は、地理・歴史分野に比べてかなり低いことが明らかとなった。一方で7月末に行ったアンケートでは、⑦「公民の学習が好きである」では多くの生徒が肯定的な評価となった。

⑥～⑩の結果・記述内容からも、学習内容を日常生活に関連付けてとらえる活動を通して、社会科を学ぶ有用性を実感している生徒の割合が高くなっていることが分かった。一方で、公民科の学習内容そのものが難しいと感じている生徒も一定数存在することも分かった。

表1 生徒アンケート

	本学級 (7月・公民学習前)	本学級 (5月・公民学習前)	2年次 (9月)	1年次 (3月)
①社会の学習が好きだ	80%	78%	81%	71%
②社会の学習は大切だ	80%	78%	92%	80%
③授業では、複数の資料を組み合わせながら答えを書くことができる？	85%	75%	69%	72%
④地理の学習は好きである	—	63%	63%	—
⑤歴史の学習は好きである	—	63%	—	54%
⑥公民の学習について興味がある	—	44%	—	—
⑦公民の学習が好きである	85%	—	—	—
⑧公民を学習する前と現在（7月）とで公民の学習に対する興味や関心は変化した？	85%	—	—	—
⑨ ⑥で回答した理由を書いてください（自由記述：5月実施分）	回答の要約（本学級：27人回答） <b>【⑥で「興味がある」と回答した生徒】</b> ○今の政治に興味がある（5人） ○将来のために学びたい（3人） ○理由はないが興味がある（1人） <b>【⑥で「興味がない」と回答した生徒】</b> ○難しそう（11人） ○面白くなさそう（4人） ○知りたいけど、理解できるか心配（3人）			
⑩ ⑧で回答した理由を書いてください（自由記述：7月実施分）	回答の要約（本学級26人回答・重複項目あり） <b>【⑧で「変化があった」と回答した生徒】</b> ○現在のことについて知れるから（11人） ○事例をもとに考えることが楽しい（6人） ○難しい（3人） ○思ったほど難しくなかったから（2人） <b>【⑧で「変化がなかった」と回答した生徒】</b> ○想像した通りの授業であったから（1人）			

## ○ 指導観

指導に当たっては、これまでと同様に、事象の提示については生徒にとって身近な内容を扱ったり、歴史的な事象から考えたりするなどして、生徒にとって人権や憲法が身近な存在であることに気づかせられるようにする。また、知識・技能を習得する時間と、活用する時間と分けることで、知識の定着と思考の時間を十分に確保し、スモールステップで生徒の理解を図っていけるようにする。

本単元では、模擬裁判という実際に一人一人が役割を演じて結論を作り上げる活動を通して、法曹三者の役割や推定無罪、三審制などの抽象的な概念を全員が理解できるように指導していく。

## 5 学校が育成を目指す資質・能力

本校が教育課程全体を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力、主体性」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科・領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動している時間の質と量が高めることが重要である。更に、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本単元においても、本校では「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」を行い、少人数班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

授業の展開の場面で（ミニホワイトボード等を使用して）	資質・能力	意欲・態度	知識・スキル		
		主体性 （自己を認識する力、 自分の人生を選択する力）	コミュニケーション能力 （表現する力）		
レベル1	○課題に対して、自分の考えを持ち、取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 speak） ○自分の考えや意見を、自分のことばで表現することができる。	（聞く） ○相づちを打ちながら、途中で口をはさまず、きくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問することができる。	
レベル2	○課題に対して、自分の考えを持ち、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 tell） ○自分の考えや意見を根拠を挙げて、相手を意識しながら、適切な方法で表現することができる。	（聴く） ○相手の話の組み立てや構造を考え、話の意図や要点を整理しながらきくことができる。	（やりとり） ○話を聞いて、内容を深めるために、質問ができる。	
レベル3	○自ら課題を見つけ、自分の考えを持ち、よりよい方法を選択し、自ら進んで取り組もうとしている。	（書く・話す・表現 talk） ○自分の考えや意見を、根拠を挙げて分かりやすくまとめ、目的や場に応じて、適切な方法で論理的に表現することができる。	（訊く） ○相手の考えについて、根拠の信頼性を判断しながらきき、話された内容と自分の意見をふまえて共通点や疑問点を明確にし、相手にたずねることができる。	（やりとり） ○話を聞いて質問をした後に、自分の意見を述べ、内容をさらに深めることができる。	
レベル4	やりたいことを自ら見つけ、分析し、（大人の力も借りながら）自分たちで実行できる。	少数意見を尊重しながら、臨機応変に対応し、話し合い活動ができる。			

## 6 単元目標

- (1) 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解すること。議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解すること。国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解すること。地方自治の基本的な考え方について理解すること。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解すること。【知識・技能】
- (2) 対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。【思考・判断・表現】
- (3) 民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとすること。【主体的に学習に取り組む態度】

## 7 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。</li><li>・議会制民主主義の意義、多数決の原理とその運用の在り方について理解している。</li><li>・国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</li><li>・地方自治の基本的な考え方について理解している。その際、地方公共団体の政治の仕組み、住民の権利や義務について理解している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、民主政治の推進と、公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・民主政治と政治参加について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</li></ul>

8 指導計画（全17時間）

教科・領域の本質的な問い

よりよい社会を実現するために、私達はどのようなことを学ぶ必要があるのか

時間	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習課題</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ねらい</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">指導内容</p>	学習課題	ねらい	重点	記録	生徒の行動・思考	評価 〔評価方法〕
学習課題							
ねらい							
現代の民主政治							
単元を貫く問い なぜ政治の代表者を私たちが決める必要があるのだろうか？							
1	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習課題：生徒会執行部って必要？不要？</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ねらい：政治の意味と民主主義に着目して生徒会執行部がどのような活動をしているか考えることができる。</td> </tr> </table> <p>・民主主義と政治の意味に着目して、生徒会の役割や仕事内容を整理することを通して、今後の学習への見通しを持たせる。</p>	学習課題：生徒会執行部って必要？不要？	ねらい：政治の意味と民主主義に着目して生徒会執行部がどのような活動をしているか考えることができる。	態		<p>・民主主義と政治の意味に着目して、なぜ生徒会執行部が存在しているかについて整理する。</p>	<p>・身近な事例を参考にし民主主義と政治の関係について考えようとしている。〔振り返り〕</p>
学習課題：生徒会執行部って必要？不要？							
ねらい：政治の意味と民主主義に着目して生徒会執行部がどのような活動をしているか考えることができる。							
2	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習課題：ややこしきの裏に愛情あり日本の選挙制度が複雑な理由を理解しよう</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ねらい：選挙制度にはさまざまな種類があることを、「民主主義」に着目して理解できる。</td> </tr> </table> <p>・日本では、小選挙区制だけでなく比例代表制など少数の国民の意見もきちんと取り入れられるような制度が使用されていることを理解させる。</p>	学習課題：ややこしきの裏に愛情あり日本の選挙制度が複雑な理由を理解しよう	ねらい：選挙制度にはさまざまな種類があることを、「民主主義」に着目して理解できる。	知	○	<p>・選挙制度について実際に模擬選挙を通して考える。</p> <p>・それぞれの選挙制度について良さや課題をWBまとめる。</p> <p>・班ごとにまとめたWBを参考にして自分なりのまとめをつくる。</p>	<p>・日本の選挙制度の仕組みについて理解している。（ワークシート）</p>
学習課題：ややこしきの裏に愛情あり日本の選挙制度が複雑な理由を理解しよう							
ねらい：選挙制度にはさまざまな種類があることを、「民主主義」に着目して理解できる。							
3	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">学習課題：どんな政党があるかを調べてみよう</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ねらい：日本の政党について、それぞれの政策に着目して調べることができる。</td> </tr> </table> <p>・それぞれの政党は、憲法や教育、税制度など様々な分野で独自の政策を打ち出</p>	学習課題：どんな政党があるかを調べてみよう	ねらい：日本の政党について、それぞれの政策に着目して調べることができる。	態	○	<p>・教科書や資料集・クロムから情報を収集し、与党1つ、野党2つを選んで政党相関図にまとめる。</p>	<p>・日本にある政党について政策から違いを発見しようとしている。（スライド）</p>
学習課題：どんな政党があるかを調べてみよう							
ねらい：日本の政党について、それぞれの政策に着目して調べることができる。							

	していることを調べさせる。				
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題：情報を活用するとはどのようなことだろう</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい：マスメディアやSNSの役割に着目して、情報を活用する意義について理解できる。</p> </div> <p>・マスメディアやSNSを活用する際は、複数の媒体から情報を見比べて判断する重要性について理解させる。</p>	知		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェイクニュース」やマスメディアの情報操作などをもとにして、情報をどのように比較していくかをまとめる。</li> </ul>	情報を比較しながらそれぞれの良さや課題に着目してまとめている。
5	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習課題：君たちならどう生きるか？私たちは政治にどのようにかかわっていくべきか考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ねらい：投票率や一票の格差など、現在の選挙制度の課題に着目して、自分たちがどのように政治に参加していくかを説明できる。</p> </div> <p>・投票率の低い原因や一票の格差が存在する理由について理解したうえで、自分が有権者となったときにどのように政治に参加するかを説明させる。</p>	思	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や資料集から現在の選挙制度の情報を収集し、整理する。</li> <li>・自分ならどうすべきかを、集めた情報をもとにして説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を整理して自分の考えを説明している（ワークシート・授業での発表）</li> </ul>
<p>単元を貫く問い「なぜ政治の代表者を私たちが決める必要があるのだろうか？」への記述内容</p> <p>【おおむね（B）評価できる生徒の振り返り】</p> <p>政治は人々が豊かな生活を送っていくために、様々な利害を調整していくことである。生徒会執行部が様々な公約を掲げ、私たちは選挙で選ぶことで自分たちの願いを間接的に実現してもらっているのも政治参加の一つである。日本においても、生徒会役員選挙と同様に自分の考えに近い人を選挙によって選び、選ばれた人が代表者となって政治を行っていく間接民主制が採用されている。また、比例代表制などの落選した候補者や政党へ投票した人の考えを反映させる方法も採用されている。</p> <p>選挙に立候補しなくても、候補者へ投票したりSNSなどで意見を交流したりするなど政治への参加方法は様々である。一方で、投票率が低かったり、偏った考えに流されたりするなどの課題もみられる。</p> <p>一人一人が主権者としての自覚をもって行動していくことが、自分たちの暮らしをよりよくしていくために求められる。</p>					
<p>国の政治の仕組み</p>					
<p>単元を貫く問い</p> <p style="text-align: center;">国の政治では、なぜ権力の分立が必要なのか</p>					

6	<p>学習課題：国会って何をしているところなのだろう？①</p> <p>ねらい：国会の仕組みについて理解できる。</p> <p>・国会は「国唯一の立法機関」であり国の予算を決めていることを理解させる。  ・国会には衆議院と参議院の2つがありそれぞれ人数や任期が異なることを理解させる。</p>	知		<p>・衆議院と参議院の違いについて表にまとめる。</p>	<p>国会の仕組みについて、国会議員や衆参両院の違いに着目して理解している。</p>
7	<p>学習課題：国会って何をしているところなのだろう？②</p> <p>ねらい：国会議員の責任や衆議院と参議院の違いに着目して、国会の役割を説明できる。</p> <p>・国会議員は国民全体のために活動することから様々な「特権」が存在することを説明させる。  ・衆議院の優越について、衆参両院の役割の違いに着目して説明できる。</p>	思	○	<p>・教科書や資料集を参考にして国会議員が様々な特権を持っている理由を整理する。  ・衆議院の優越の種類をWBに書き出し、それぞれの理由について考えさせる。</p>	<p>・国会の役割について制度の意義に着目して説明している。〔振り返り〕</p>
8	<p>学習課題：総理大臣はだれが決めるの  だろう？</p> <p>ねらい：内閣の役割について、「公務員」に着目して理解できる。</p> <p>・身近な公務員の事例をもとにして行政の役割について理解させる。  ・行政のトップとして内閣が存在していることを理解させる。</p>	知	○	<p>・行政の具体的な活動内容を整理する。  ・内閣の役割について各省庁の具体的な取り組みをもとにまとめる。</p>	<p>・行政の役割について、具体的な事例をもとにしてまとめている。〔振り返り〕</p>
9	<p>学習課題：政府の「大小」って何  だろう？</p> <p>ねらい：行政の在り方について政府の規模に着目して説明できる。</p> <p>・「大きな政府」・「小さな政府」の理解をもとにして、これからの行政についての在り方を「効率と公正」「人権」「民主主義」に着目して自分なりの答えを考えさせる。</p>	態		<p>・「大きな政府」・「小さな政府」の違いをまとめる。  ・行政についての在り方を「効率と公正」「人権」「民主主義」に着目して図や言葉にして考える。</p>	<p>・行政の在り方について視点を明確にして考えている。</p>

10	<p>学習課題：裁判って何のためにあるの？</p> <p>ねらい：裁判所の役割について理解できる。</p> <p>・人々の権利を保障し社会の秩序を守るために裁判所が存在していることを理解させる。 ・裁判所には上級裁判所と下級裁判所が存在し、それぞれ役割が異なることを理解させる。</p>	知		<p>・教科書を参考にして、裁判所の役割やそれぞれの裁判所の特徴をまとめる。</p>	<p>裁判所の役割について理解している。</p>
11	<p>学習課題：模擬裁判を通して、裁判について考えよう①</p> <p>ねらい：事実関係と法律、判例に着目して判決を出し、裁判の意義を考えることができる。</p> <p>・役割を通して裁判の仕組みについて理解させる。 ・事実関係をもとに検察・弁護人の考えを整理して争点を説明させる。</p>	思		<p>・裁判官・検察官・弁護人・被告人の役割に分かれて、審理を行う。 ・法曹三者以外は陪審員として裁判に参加し、質問したり、協議を行ったりする。</p>	<p>検察・弁護人の考えを整理して争点を説明している〔ワークシート〕</p>
12	<p><b>【本時】</b></p> <p>学習課題：模擬裁判を通して、裁判について考えよう②</p> <p>ねらい：事実関係と法律、判例に着目して判決を出し、裁判の意義を考えることができる。</p> <p>・事実関係を法律に当てはめながら客観的に物事を捉えて判決を考えさせる。</p>	態	○	<p>・裁判官・検察官・弁護人・被告人の役割に分かれて、審理を行う。 ・法曹三者以外は陪審員として裁判に参加し、質問したり、協議を行ったりして被告人への判決を考える。</p>	<p>裁判の仕組みや役割に関心を持ち、問いを見いだしている〔振り返り〕</p>
13	<p>学習課題：なぜ権力の分立が必要なのか考えよう？</p> <p>ねらい：権力の分立が必要な理由を「そもそも権力が1つだったら」という視点で説明できる。</p> <p>・三権分立の意義について、「人の支配」と比較して説明させる。</p>	思	○	<p>・WB に人の支配と三権分立の違いについて整理する。 ・三権分立の意義について、図や言葉を使って説明する。</p>	<p>三権分立の意義について、「人の支配」と比較して説明している。〔振り返り〕</p>
<p>単元を貫く問い「なぜ権力の分立が必要なのか？」への記述内容</p> <p><b>【おおむね（B）評価できる生徒の振り返り】</b></p> <p>現在の日本では、立法権・行政権・司法権の3つの権力を、それぞれの機関が独立して行使することで、権力が集中しないような仕組みを採用している。</p> <p>国会が国唯一の立法権として法律や国の予算を決め、行政権を持つ内閣が国会の作った法律や予</p>					

算を使って政治を行っている。裁判所は国会の作った法律や内閣の行う政治が憲法に違反していないかを審査している。それぞれの権力がお互いに監視しあう関係となることで、権力が好き勝手に使われない状態となっている。

また、国民は行政には自分たちの声を（世論）、裁判所へは最高裁判所裁判官の国民審査を通して国会議員の選挙と同様に主権を行使することができる。

地方自治と私たち

単元を貫く問い

地方自治を発展させるために、私たちに何ができるのか？

14	<p>学習課題：住み続けたくない町、尾道！？なぜ尾道は人口が流出し続けているのか？</p> <p>ねらい：尾道市の取り組みに着目して地方の政治（地方自治）について理解できる。</p> <p>・尾道市の取り組みを調べさせ、地方自治についての興味を持たせる。 ・地方自治は、自分たちの身近な課題を解決できる場であることを理解させる。</p>	知		<p>・尾道市はどのような取り組みをしているかを、クロムブックを使用して調べる。 ・地方自治の概念について教科書や資料集から読み取る。</p>	<p>・地方自治の概念について理解している。 〔振り返り〕</p>
15	<p>学習課題：住みやすい町とはどんな町？住民ファーストの取り組みができる理由を考えよう。</p> <p>ねらい：県や市の政治の特色について、地方自治と国の政治の特色の違いや政策に着目して説明できる。</p> <p>・自治体は、町の実態に応じて様々な取り組みを行っていることを具体的な事例と目的を明らかにして説明させる。</p>	思	○	<p>・自治体の取り組みを、資料をもとにして、目的を明らかにしながら整理する。 ・グループで様々な課題と課題解決への取り組みを関連付けながら図や文章にまとめる。</p>	<p>・自治体は、町の実態に応じて様々な取り組みを行っていることを具体的な事例と目的を明らかにして説明している。 〔振り返り〕</p>
16	<p>学習課題：尾道は100年後、豊かになっているだろうか①</p> <p>ねらい：自治体の将来について、「財政」「人口」に着目して理解できる。</p> <p>・自主財源だけでなく、国からの補助（依存財源）によって自治体の財政が賄われていることを理解させる。 ・人口が減少していく中で、現状と同じ財政では町の存続が難しいことを理解させる。</p>	知		<p>・教科書や資料を参考にして他の自治体の財政の状況を読み取る。 ・グループで、財政状況を人口や自治体の特徴と関連付けて分析させる。</p>	<p>・財政状況を、自主財源、依存財源に着目して分析している。</p>

まとめ

16	<p>学習課題：尾道は100年後、豊かになっているだろうか②</p> <p>ねらい：尾道の将来について、「財政」「人口」に着目して、良さや課題を提案できる。</p> <p>・尾道の将来について、「財政」「人口」「自治体の特徴」に着目して、分析させる。</p>	態	○	<p>・学習した視点をもとにして、様々な自治体と尾道市を比較し、「自分なら」という視点で考える。</p>	<p>・尾道の将来について、「財政」「人口」「自治体の特徴」に着目して、分析させる。 〔振り返り〕</p>
<p>単元を貫く問い「地方自治を発展させるために、私たちに何ができるのか？」への記述内容 地方の政治は、私たちの生活に大きくかかわっている。自治体へ直接政策を要求したり、首長や議会を解散（リコール）させたりすることが認められている。 一方で、財政が依存財源で賄われていたり、高齢化が進み福祉関連の費用の支出が増えたりするなど、多くの自治体は財政状況を改善するための取り組みを行っている。 自分たちの住んでいる町だからこそ、住民投票や地域の活動など積極的に参加をして責任をもって行動していきたい。</p>					

## 9 本時の展開

### (1) 本時の目標

○模擬裁判で事実関係や法律をもとに判決を考える活動を通して、裁判の仕組みや役割に関心を持ち、問いを見いだすことができる。

説明する際の、まとめの具体例は次の通りである。

まとめ 人々の人権を保障するために公正な判断をする場として裁判所がある。

刑事裁判の場合、法律の専門家である検察と弁護士が被告人の罪状について証拠や証言などをもとに議論しあい、裁判官や裁判員が有罪か無罪かを判断する。

### (2) 本時の評価規準と生徒記述の例

事実関係と法律、判例に着目して判決を出し、裁判の意義を考えることができる。

【主体性】

#### 生徒の記述例

・実際に証拠や証言だけで判決を考えることは難しく、普段ニュースで何気なく見ている裁判もすごく難しい判断を裁判官や裁判員の方がされていることが分かった。

### (3) 準備物

- ・クロムブック・ワークシート・資料

**○市コンビニ強盗致傷事件**

×月×日深夜1時ごろ、○市のコンビニエンスストアに、スキー帽をかぶり、サングラス、マスクを着けた黒っぽい服装の男が強盗に入った。男は店員Aをナイフでおとし、「金を出せ」と要求して、現金10万7000円をうばった。その後、男と追いかけてきた店員Aは店の前の路上でもみ合いになり、



男は店員Aをなぐりたおした。店員Aは路面に右ひじを強く打ちつけ、全治2か月のけがを負った。男はもみ合ったときにサングラスをその場に落としたが、すぐに拾って走り去った。

コンビニの近くに住民Bは、深夜1時過ぎごろ、たまたま自宅の窓を開けて通りをながめていたところ、黒っぽい服装の人物がバイクに乗って通りを猛スピードで走っていくのを目撃したと証言している。店員Aも、男が走り去った後、バイクの音がしたと証言している。これらの証言から、男はコンビニからはなれた場所に止めていたバイクに乗って、住民Bの自宅の前を通過してげたと考えられている。



事件から1週間後、警察は、店員Aが見た男とよく似ており、また住民Bが目撃したものとよく似たバイクを所有している、同市在住のXを被疑者として逮捕した。事件のあったコンビニから500mほどはなれたところにあるXの自宅アパートを調べたところ、銀行預金10万円のほかに、現金9万7000円とアウトドアナイフ、スキー帽、サングラスを所有していた。また、同じアパートの1階に住む住人Cは、事件当日の深夜1時過ぎごろ、アパートの駐輪場でバイクの音がしたので、アパートで唯一バイクを所有しているXがアパートにもどってきたと思ったと証言した。

警察の調べに対してXは、強盗が入った時間帯は一人で部屋におり、テレビを見ていたと主張し、容疑を否認した。また、所有していたアウトドアナイフも趣味のキャンプの必需品であり、現金もキャンプ用品を買うためにためていたものだと主張した。

取り調べの結果、Xは、刑法第240条前段に定められている強盗致傷の疑いで起訴された。

(4) 本時の流れ (12時間目/全16時間)

過程	<input type="checkbox"/> 学習活動 <b>教師</b> と <b>生徒</b> のやりとり	指導上の留意事項 (○) ・予想される生徒の反応 (・)	評価規準〔観 点〕 ★資質・能力 【評価方法】
<b>1 課題設定 10分</b>			
導入	<input type="checkbox"/> 前回の学習の振り返りを行う <b>教師</b> 前回の裁判の内容を振り返ってみましょう。 検察側の主張と、被告人側の主張をペアで伝え合ってみてください。 <input type="checkbox"/> ペアワークを行う。(1分) <b>教師</b> 発表してください。 <b>生徒</b> 検察は〇〇さんが強盗を行ったと主張しています。弁護人は無罪を主張しています。  <b>教師</b> 今日は実際に判決まで考えていきます。	○前時の確認をすることで、つながりを持って学習に臨めるようにする。 ○お互いの主張を明らかにさせることで、対立構造を明確にする。  ○発表させることで、全体で共通した認識が持てるようにする。 ○黒板に対立構造のシーンを張ることで、授業中に分からなくなってもすぐに思考ができるようにする。	<div style="border: 1px solid red; padding: 2px; color: red; width: fit-content; margin: auto;">導入の工夫</div>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>学習課題</b>              事実関係と法律、判例に着目して判決を出し、裁判の意義を考えることができる。</p> <p><b>ねらい</b>              模擬裁判を通して、裁判の役割を理解しよう。</p> </div>			
	<b>教師</b> 判断に移る前に、判決を出すまでの考えを整理しましょう。	○判決までのフローチャートを掲示することで、判断の基準を統一し、結論や理由が違うということを明確にさせる。	
<p style="text-align: center;">次の1から4を参考に、Xが有罪か無罪か(Xがコンビニ強盗を行い、店員Aにけがをさせたかどうか)について、グループで評議しましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 刑事裁判には「無罪推定の原則」という考え方があります。これは、検察官が、証拠(証言や物証など)を基に、合理的な疑いを入れる余地がなくなるまで有罪を証明しなければ、被告人は無罪になるというものです。この「無罪推定の原則」の考え方に従って検討しましょう。</li> <li>2 上のAからDを中心に考えましょう。</li> <li>3 左の証拠(証言と物証)を、「有罪の根拠になる証拠」と「有罪とはいえない根拠になる証拠」に分類しましょう。そして、その中でも特に重視する証拠を挙げましょう。</li> <li>4 グループでの評議が終わったら、Xが有罪か無罪かについて、そのように判断した理由もふくめてクラスで発表し合しましょう。</li> </ol>			

2 学習の進め方を知る。15分		
展開・前半	<input type="checkbox"/> 活動の説明を聞き、見通しを持つ。 <b>教師</b> ：今からホワイトボードに判決を書いていきます。 まとめ方は、判決文・お互いの主張をどのように判断したかです。[10分] <input type="checkbox"/> グループでまとめる活動を行う	<input type="checkbox"/> 電子黒板に例を挙げておくことで、グループ活動の際に自分たちで考えることができるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         ホワイトボードの使い方          判決：有罪・無罪          理由          検察の主張…○○という証拠（証言）から有罪の根拠となる           弁護側の主張…○○という証拠（証言）から無罪の根拠となる       </div>		
	<input type="checkbox"/> 前後の班同士で、自分たちのグループの案を発表しあい、疑問点や質問を行う。 <b>教師</b> 前後の班で自分たちの現時点での案を伝えあってみましょう。4人グループの中から残って発表する人2人、出張して発表を聞く人2人に分かれて下さい。出張する人は、行った先の班の考えの問題点や課題を言ってください。[5分]	<input type="checkbox"/> 他の班の意見を取り入れたら、疑問点をぶつけあったりすることで、思考を整理させる。 ・お金がかかりすぎる ・場所がない など
3 説明をまとめる。[15分]		
展開・後半	<input type="checkbox"/> 課題点をもとに判決の修正を行う <b>教師</b> グループごとに出た意見をもとにして、改善策を考えていきましょう。[10分]	<input type="checkbox"/> 「一人一人が、個人を尊重する」という立場になって考えさせる。
4 探究した結果を説明する。[10分]		
まとめ・終末	<input type="checkbox"/> 各グループのプレゼンを聞く [6分]  <input type="checkbox"/> 教師の説明を聞き、本時のまとめを行う。	<input type="checkbox"/> 班でまとめた内容を全体で交流する。(3グループ程度)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">         まとめ          人々の人権を保障するために公正な判断をする場として裁判所がある。          刑事裁判の場合、法律の専門家である検察と弁護人が被告人の罪状について証拠や証言などをもとに議論しあい、裁判官や裁判員が有罪か無罪かを判断する。       </div>		
	<input type="checkbox"/> 次時の内容を確認する。	



<p>□振り返りに、今日の授業で、大切だと思ったことを記入し、振り返りを行う。</p>		<p>裁判の仕組みや役割に関心を持ち、問いを見いだしている〔振り返り〕</p>
<p>振り返り記述例          実際に証拠や証言だけで判決を考えることは難しく、普段ニュースで何気なく見ている裁判もすごく難しい判断を裁判官や裁判員の方がされていることが分かった。</p>		

ねらいに対する評価規準を示すルーブリック（パフォーマンス評価）

尺度（評点・レベル）	評価規準
B（おおむね満足できる）	裁判の仕組みや役割に関心を持ち、問いを見いだしている。
C（努力を要する）	裁判の仕組みや役割に関心を持ち、問いを見いだしていない。

（5）板書計画

単元 課題 ねらい	WB	WB	WB
	WB	WB	WB
	まとめ		